

事業名	自然エネルギーを活用した持続可能な プラスエネルギー住宅『ルネ・ハウス』	代表団体	千葉大学
		プロジェクトリーダー	川瀬貴晴

事業概要

欧州基準の高断熱住宅を部材レベルから新たに創出

部材レベルから材料選択し建物の断熱性等を高めた上で太陽光と太陽熱を有効に活用したパッシブな住環境を目指します。

木の使用にこだわる

近年、国産の木材需要が高まっています。

伐採した木材を建築物に姿を変えて都市にストックし、伐採地に新たな資源生産を始めるという循環を生み出す必要性があると言えます。

ルネ・ハウスは建築の構造体の材料として木材を用いるだけでなく、サッシや断熱材にも木質素材の使用をこだわって設計を進めています。

企業と連携した、国内外に発展できる住宅構法の開発

本事業によって開発をしたルネ・ハウスは、千葉大学とジャパン建材株式会社によって開発された「構法」として全国の新築戸建住宅の約8割のシェアを担っている一般工務店に広めることによって、本来の住宅産業のあるべき姿である、地域経済に根ざした産業の発展を期待することができます。

コンテナ輸送を考慮しユニット化されたコアと、ストレスキンパネルを採用した大架構による住宅

建物はプレファブ化が可能なコアとなる部分と、集成材を利用した大架構の部分とに分けることで、消費者のニーズに合わせ、閉鎖的な空間と開放的な空間のどちらをも実現可能な提案となっています。さらに、大架構の部分を、二重床をはじめとした更新可能なスケルトンインフィルとすることによって、消費者の長期的な利用と更新が可能となります。

ソーラー・デカスロン・ヨーロッパ 2014 への展開

本事業終了後、改良を施したルネ・ハウスは2014年フランスで開かれる「ソーラー・デカスロン・ヨーロッパ2014(以下、SDE2014)」へ出展します。

SDE2014では、さらに細かい審査項目を国際審査団によって評価されることから、大会終了後は国際的な商用展開も含めたさらなる開発が進められることとなります。

提案住宅のイメージ



実施体制

